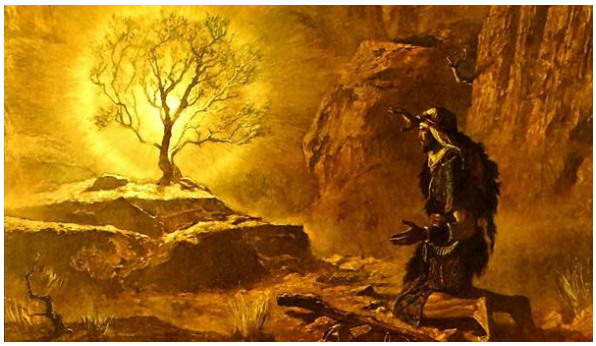
「わたしは何者でしょう」（2022．4．17）

モーセは神に言った。「わたしは何者でしょう。どうして、ファラオのもとに行き、しかもイスラエルの人々をエジプトから導き出さねばならないのですか。」神は言われた。「わたしは必ずあなたと共にいる。」（出エジ 3:11 - 12）

エジプトからイスラエルの民を導き出すように召されたモーセは、その神に訴える。「わたしは何者でしょう。」ここにはモーセの貧しいセルフイメージが現れている。40 年前、良かれと思い為したにもかかわらずイスラエルの民の反感を受け、エジプトから逃亡した。その時の失敗の傷、指導性のなさが自覚されている。またこの後明らかになるが、雄弁に語れない口の重い者という強い劣等感も込められている。「わたしは何者でしょう」今はただ一人の羊飼いに過ぎないという、召された大きな仕事に対し臆病なモーセがいる。



そのように問うモーセに対して神は「わたしは必ずあなたと共にいる。」と答える。これはモーセの問いに直接答えていないかのように感じるが、そうではない。「わたしは何者でしょうか。」「あなたは、『わたしは必ずあなたと共にいる』との約束を受けている者である。」ということである。指導性がなかろうが、口が重かろうが、わたしは必ずあなたと共にいて、それらの弱さ・足らなさをカバーする、心配ない、ということである。

2022 年という月日は、誰にとっても初めて踏み出す時である。何が起こるかわからない。特に新しいことに召された時、私たちは怖れを感じ、自分の弱さ・足らなさに大きく心を支配されやすい。モーセのように「私たちは何者でしょう」との問いを発するかもしれない。でも、思い起こしたい。聖餐式の度ごとに聴くみ言葉である。*「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲むものは、いつも私の内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。」（ヨハネ 6:56）* 主がいつも私たちと共にいてくださるのである。だから、私たちは「イエス様がいつも私と共にいてくださる」との約束を受けている者である。そう自分に言い聞かせ、モーセのように朝毎に踏み出していきたい。